

映画上映&ディスカッション

ブーヘンヴァルト強制収容所の目撃者 アンドレイ・イヴァノヴィッチ



2025/01/31 (金)

15:00 - 16:30

立命館大学 平井嘉一郎記念図書館

ブーヘンヴァルト強制収容所の最後の生存者の一人であるアンドレイ・イヴァノヴィッチ氏が、立命館大学で彼の生涯を描いたドキュメンタリー映像の上映とディスカッションを行います。ディスカッションは、このドキュメンタリー映画の原作者ハネス・ファーロック氏とゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川の館長エンツィオ・ヴェッツェルも交えた対談形式で行います。1945年4月14日、氏が強制収容所でどのように解放を体験したのか、そしてその記念日が今日においてどのような意味を持ち、後世に何を伝えたいかについて話します。

映画本編（日本語字幕版）のリンクは、本イベント終了後3週間、参加者にのみオンラインで公開されます。

アンドレイ・イヴァノヴィッチ Andrei Iwanowitsch Moiseenko

1926年ソビエト連邦生まれ。村の集団農場で窮乏した生活を送るなか、ドイツ国防軍がウクライナを占領。アンドレイは兄弟の食料を探している最中にドイツ兵に捕らえられ、強制労働のためドイツに送られた。その後ブーヘンヴァルト強制収容所に移送され、そこの採石場で1944年秋まで過酷な労働に従事した。囚人番号19852番が与えられた。その後、アンドレイは衛星収容所のヴァンスレーベンに送られ、解放まで同地で働いた。

1945年4月14日、彼を含む収容者全員が米軍によって解放された。同年7月ドイツの降伏後、チューリンゲン州がソ連の占領地域に属することが決まると、アンドレイはソ連当局に引き渡され、満年齢であると告げられた後直ちに赤軍に徴兵された。

1950年11月の退役後、アンドレイは学校を卒業し、1960年には大学の学位を取得。機械メーカーの設計事務所で製図工として働きはじめ、退職するまでの38年間勤めた。

1952年夏、アンドレイは生涯の最愛の人に出会い、その3カ月後に結婚。2人の息子に恵まれた。1980年代、彼の妻は悲劇的な死を遂げ、その直後に息子の一人を失う。アンドレイ・イヴァノヴィッチは現在ミンスクに住み、歴史ワークショップとドイツ語友の会に参加している。解放記念日にはブーヘンヴァルト記念館を訪れる。

詳細

言語:

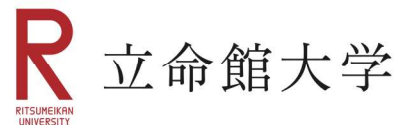
映画: ロシア語・日本語字幕つき

ディスカッション: ロシア語・ドイツ語&日本語逐次通訳つき

料金: 入場無料、事前予約不要、定員80名

住所

立命館大学 平井嘉一郎記念図書館
京都市北区等持院北町56-1
衣笠キャンパス内
京都
Japan



立命館大学法学部比較司法制度研究会

立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター

